

「在る無 無い無」

あのトンネルの向こう側に無がある
よくみんな平気でいられるもんだ
ある無 ない無 ない無 ある無
無 無 無 無 無 無
赤い電車は走るトンネルに向かって
シウマイ弁当食いながら 大関を一口
ある無 ない無 ない無 ある無
無 無 無 無 無 無

あのトンネルの暗闇に包み込まれたら
行く場所はただ一つ 幻の砂浜

尻が伸びて ゆがんだ時計に支えられて
折れた短針から 虹がこぼれおちる
ある無 ない無 ない無 ある無
無 無 無 無 無 無

いやよく考えてみろよ
いや無は思考しない
ではよく見てみろよ
いや無に目玉はあるはずもない
なのに砂の輝きを感じ
なのに虹の流れを感じる

ある無 ない無 ない無 ある無
ある無 ない無 ない無 ある無